

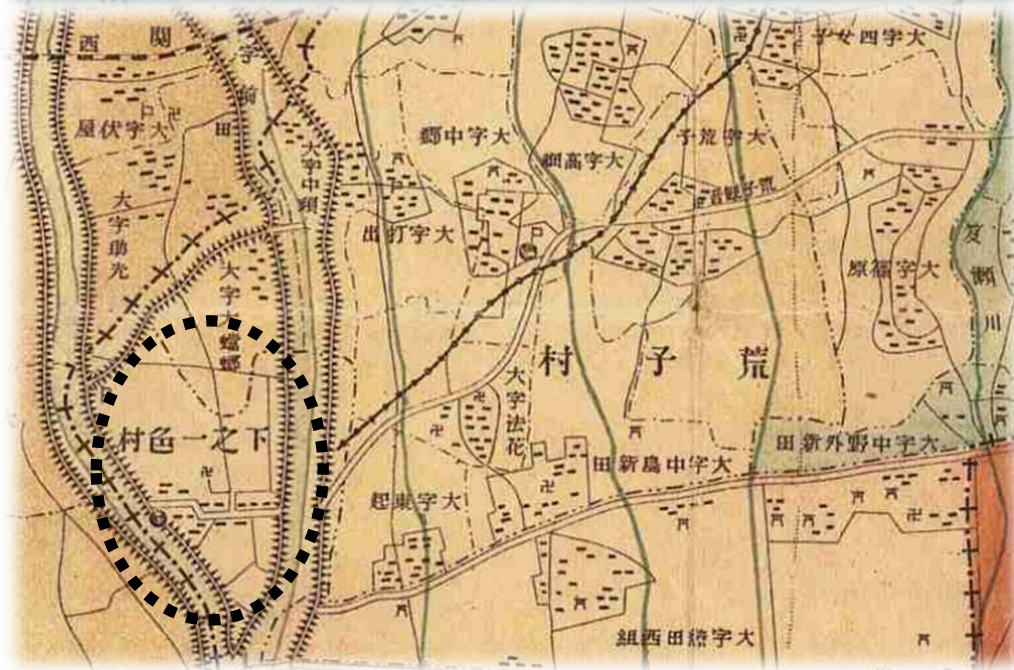
庄内川と新川に挟まれ、南に向かつて逆三角形の形をした下之一色は、中川区でも特有の歴史を持つ土地です。かつて庄内川は、中須から江松方面に向かい、さらに現在の新川付近を流れており、当時、庄内川の東側に位置した下之一色は、今では川で切り離されている松蔭とも一続きになっていました。その後、1767(明和4)年の洪水で中須から下之一色までの庄内川の分流が出来たことを期とした瀬違え(河道変更)および、1783(天明3)年に新川が開削された結果、現在ののような地形となりました。第二次大戦後まで、中須から江松への古い河道の堤防が残っており、かつての名残が見られたそうです。漁業の始まりは定かではありませんが、江戸時代前期の記録である『寛文村々覚書』には、家244軒、人口1246人、猟船64艘とあり、すでに漁業が行なわれていたことがわかります。

明治以降、周辺とは合併せず、単独で村から町となった下之一色は、1937(昭和12)年3月、名古屋市中区となり、同10月に区の新設で中川区となりました。その後も漁師町として繁栄しましたが、1959(昭和34)年の伊勢湾台風を受けた名古屋港の高潮防潮堤建設の結果、漁業に終止符を打ちました。また、1913(大正2)年に開通した下之一色電車を引き継いだ市電は、1969(昭和44)年に廃止されるまで、ローカルムード漂う路線として知られていました。

【参考】『下之一色地区民俗調査報告』(名古屋市総務局)、『名古屋の漁師町下之一色』(名古屋市博物館)、『なごやの町名』(名古屋市計画局) 二〇一五(平成二七)年六月作成・二〇二二(令和三)年三月改訂



◀《図1》「尾張国図」【江戸時代・製作年不明】から、下(之)一色周辺の様子。庄内川付け替え以前の図のため、下之一色は東起(ひがしおこし)と同じく、庄内川の東にあります。



◀《図2》「愛知県図」【大正2(1913)年】の下之一色村。

*《図1・2》は、名古屋図書館ホームページ内「なごやコレクション」でご覧いただけます。

▼《図3》「尾張国町村絵図」から「下之一色村」【天保12(1841)年】

